第〇学年社会科歴史的分野学習指導案

令和〇年〇月〇日（　）　第〇校時

授業者B7h11094　長幅　樹

B7h11096　名倉　昌志

B7h11120　牧瀬　健

　　B7h11124　松本　はるか

１　単元名　　「中世の日本」

小単元名　「武士の台頭と鎌倉幕府」

２　単元について

（１）教材観・系統性

本単元は、学習指導要領歴史分野の内容に示された目標で（１）である我が国の歴史の大きな流れを、各時代の特色を踏まえることで学習することができる。政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目して各時代の特色を明らかにして、我が国の歴史を大きく捉えることができる。平安時代中頃の武士の台頭から鎌倉時代にかけての武家政権の成立とその全国支配の広まりを中心に扱う。歴史的分野の学習において、情報は主に様々な資料を通して収集される。文献や絵図、地図、統計など歴史学習に関わる様々な性格の資料や、作業的で具体的な体験を伴う学習によって得られる幅広い資料が存在する。その中から、必要な資料を選択して有効に活用することで、社会的事象を一面的に捉えるのではなく、様々な角度から捉えることが可能となる。

目標の（２）は、歴史的分野において養われる思考力、判断力を社会的事象の歴史的な見方・考え方を用いて、歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色や、事象相互の関連を多面的・多角的に考察する力、歴史に見られる課題を把握して学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて選択・判断できる力を捉えることができる。

３　小単元の目標

【社会的事象への知識・技能】

武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり武家政権が発展していったこと、鎌倉時代の新しい文化や仏教の特色を理解し、その知識を身に付けている。

武士が台頭し、武家政権が成立したことと、鎌倉時代の武士や民衆の動き、鎌倉文化などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりする。

【社会的な思考・判断・表現】

武士が台頭し武家政権が成立し、武士の支配が次第に全国に広まり、武家社会が発展していったという時代の流れ、鎌倉時代に新しい文化と仏教が生まれたことについて多面的・多角的に考察し、公平に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

【学びあう力・人間性】

武士が台頭し武家政権が成立したことや、鎌倉時代の武士や民衆の動き、鎌倉時代の新しい文化と仏教に対する関心を高め、意欲的に追及し、中世の文化財を尊重しようとしている。

４　小単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 社会的事象への知識・技能  ア | 社会的な思考・判断・表現  イ | 学びあう力・人間性  ウ |
| ①武家政権の発展を理解し、鎌倉時代の新しい文化の特色などを理解している。  ②鎌倉文化などに関する様々な資料を収集し有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりする | ①武家政権の発展、新しい文化を公平に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 | ①鎌倉時代の武士や民衆の動き、鎌倉時代の新しい文化と仏教に対する関心を高め、意欲的に追及し、中世の文化財を尊重しようとしている。 |

５　教材構造図

具体的知識

知識

中心概念

武士　武士団　源氏　平氏　上皇　院政　平清盛

【武士の登場】　平安中期、武士が登場し、各地で武士団が形成される。その中で、有力だったのが、源氏と兵士であった。院政では、武士団が活躍し、様々な戦を経て、政治的な力を得ていった

奥州藤原氏

中尊寺金色堂

【中心概念】 平安時代の中頃から武士が台頭し、院政や平氏政権を経て、源頼朝のもと御家人制度を基盤とする鎌倉幕府が成立した。承久の乱を経て、幕府の支配が全国に広まり武家政権が発展していった。 鎌倉時代には武士や民衆の成長を背景とした，新しい文化と宗教が生まれた。

【奥州藤原氏と平泉】　様々な合戦を経て、奥州藤原氏が平泉を拠点に東北地方を支配した。金や馬などの産物と、北方との交易による経済力を背景に様々な寺院を建立した

源頼朝　源義経　守護　地頭　鎌倉幕府　御恩と奉公　執権　六波羅探題　承久の乱　御成敗式目

【武家政権の成立】　源平合戦を経て、平氏が滅亡し、鎌倉幕府が成立した。全国に、守護・地頭を置き、御家人には、御恩と奉公の関係を結ばせた。承久の乱を経て、鎌倉幕府の全国支配が確立し、武家政治が発展した

二毛作

定期市

【武士の民衆の生活】　武士は農業生産に従事し、一方は、土地の支配を強めた。また、鎌倉時代は農業の生産性が高まり、手工業者が現れ、定期市が開かれた。

【鎌倉時代の文化と宗教】　鎌倉時代には、武士や民衆の活力を背景に、素朴で力強い文化が生まれた。

社会に対する不安から、行いが簡単な新しい仏教が広まった

新古今和歌集　徒然草　平家物語　浄土宗　浄土真宗　時宗　禅宗　運慶　金剛力士像

５　学習計画

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ねらい　＜時＞ | 学習活動・学習内容 | 指導上の留意点 | 評価基準 |
| １  つかむ | ・武士がどのように起こったのか理解する。  ・ | 〈武士がどのようにおこり、力を伸ばていったのか〉  ・武士が台頭し、政治の実権を握るまでの経緯を調べる。 | ・戦乱、合戦の内容までは深くやらずに、重要な事柄を確実におさえ、時代の流れを意識させる。 | 〈知識・理解〉  武士の台頭を歴史の流れをおさえながら理解している。（ワークシート） |
| ２  調べる | ・鎌倉幕府の成立までの経緯、御恩と奉公の関係、守護・地頭の設置とその役割、執権政治について理解し、知識を身につける。 | 〈武家政権はどのような特徴を持っていたのか〉  ・なぜ守護・地頭を設置したのかを調べる。  ・御恩と奉公の関係を理解しまとめる。  ・北条家がどのようにして実権を握ったのかを調べる。  ・承久の乱の前後の変化を幕府の支配力に着目して説明する。 | ・封建制度について確実に理解できるようにする。  ・源氏、北条家、朝廷の関係をおされる。 | 〈知識・理解〉  鎌倉幕府の成立までの経緯、御恩と奉公の関係、守護・地頭の設置とその役割、執権政治について理解し、知識を身につけている。（ワークシート）  〈思考・判断・表現〉  承久の乱の前後の変化を幕府の支配力に着目して説明できる。（ワークシート） |
| ３  調べる | ・絵などの資料から武士や民衆の生活の様子を読み取ることができる。 | 〈鎌倉時代の人々はどのような暮らしをしていたのか〉  ・当時かかれた絵や文章から武士や民衆がどのような生活をしていたのかを読み取り、推測する。  ・民衆や武士の間ではどのような不満があったのかについて資料を用いて調べる。 | ・資料を読み取る時に誤った知識を獲得しないよう注意する。 | 〈資料の活用〉  絵などの資料から武士や民衆の生活の様子を読み取ることができる。 |
| ４  まとめる | ・鎌倉時代の新しい文化や宗教を時代背景と関連させて考察する。 | 〈鎌倉時代の文化や宗教はどのような特色を持っていたのか〉  ・どのような文化であったのかを資料を用いながらまとめる。  ・どのような宗教が生まれたのかそれぞれの特徴を踏まえまとめる。  ・鎌倉時代の文化や宗教を時代背景と関連させながら多面的・多角的に考察し、まとめる。 | ・全員が自分の考えを持てるようにする。  ・中心概念を踏まえ、多面的・多角的に考察できるようにする。 | 〈資料の活用〉  鎌倉時代の文化の特徴を読み取ることができる。  〈思考・判断・表現〉  鎌倉時代の文化や宗教を時代背景と関連させながら多面的・多角的に考察することができる。 |

６　本時の授業

1. 目標

鎌倉幕府の成立までの経緯、御恩と奉公の関係、守護・地頭の設置とその役割、執権政治について理解し、知識を身につける。

（２）　展開

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | * 主な学習活動・学習内容   ▽予想される生徒の反応 | □指導上の留意点　♦︎評価と支援 | 資料 | 時間 |
| つかむ | * 紅白帽を見せ、紅白に別れて競争する仕組みは、源平の争乱が由来していることを教え、現在に文化として残るほど大きな戦いであったことを教える   ○前回の復習。平治の乱、保元の乱を制した平氏のリーダー平清盛が権力を拡大していったことを振り返る  ○平清盛が行ったことを簡潔に説明する（日宋貿易、院政）   * 莫大な勢力になった平氏は、すぐ力を失っていくがそれはなぜかを教科書を用いて説明する   ▽平氏が高位を独占したため、武士や貴族に反感をくらっていたため大きな戦いが起こったことを理解させる）  ○源平の争乱で打ち勝った源頼朝は鎌倉幕府を作ったことを抑え、この幕府は、長いこと存続したことを教える  （本時の問い）なぜ鎌倉幕府だけが長続きしたのだろうか。 | * 紅白帽を見せ、現代と昔の繋がりに目を向けさせ、現代に残るほど大きな戦いであったことを感じてもらう   ♦︎イ   * 教科書、資料を読んで、前回の授業の内容を振り返り、前回とのつながりを意識させる   ♦︎ア①   * 平清盛がどのように栄華を傷いたかを理解させ、武士が世の中を支配していく過程に目を向ける   ♦︎ア①   * 栄華を築いた平氏に対して、武士や貴族が反乱をしたことで、栄華を築いた平氏勢力が一気に衰退していくことを抑え、反抗勢力の中心だった源頼朝がどのように活躍していったかに着目させる   □幕府が長く存続したことを教え、平氏政権と源氏政権を比較させる意識を持たせる | 紅白帽  平家物語の一文  教科書  教科書  学習シート  教科書  学習シート  学習シート |  |
| 調べる・考える | * 問いに対する予想をさせる   ▽封建体制を作って、管理、監視を徹底した   * 守護、地頭は何のために設置されたのかを調べる   ▽管理、監視を行うために守護、地頭を置いた   * 源頼朝は、義経を捕まえるためにどのようなことをしたか調べる * 奥州藤原氏を滅ぼし、東日本を支配した * 武家政権の特色について資料をもとに調べる * 承久の乱が、鎌倉幕府にどのような影響を与えたかを調べ考える   ▽西日本にまで、支配が及び、朝廷の力が弱まった | □資料を提示し、考えさせることで、当時、争いが多いことから封建的な体制を整えようとしていたことに着目させる   * 義経をかくまったことを名目に奥州藤原氏を滅ぼすことで東日本を支配したことを確認させる   □将軍と御家人は、土地を仲立ちにして、主従関係にあったことを資料を使って理解する  □頼朝の死後、北条氏が執権として幕府の実権を握ったことを理解させる  後鳥羽上皇が起こした承久の乱により、六波羅探題が設置され、西日本まで支配が及んだことを資料で確認する  ♦︎イ | 教科書p６２②  吾妻鏡（文治の勅許）  教科書  資料集  学習シート  資料集 |  |
| まとめる・生かす | * 本時の学習内容を各自でまとめ、発表する * 鎌倉幕府は、御家人と将軍がご恩と奉公で主従関係を作り、様々な戦いを通して領地を拡大し、守護、地頭、六波羅探題で監視、管理したため、長く存続した | □生徒たちが書いている時間に、口頭で今回の授業の流れを説明する  ♦︎イ | 学習シート |  |